

2021年(令和3年)

第7号

(5月1日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

今月のことば ～ていねいに暮らす～ 布教支援室 平井利枝

校成 5 月号のお役を布教支援室の平井が頂きました。宜しくお願い致します。

「あら?」「何で?」と思われる方もあるかも知れません。昨年2月に新型コロナウイルスの感染が拡大しなければ、今頃は滋賀教会さんに異動しているはずでした。今こうして、京都教会でお世話になるのも何かのご縁だと思えます。

新学期が始まり、お陰さまで3人の孫たちも元気に登校しています。小学3年生の孫の担任は中村先生、2年生の時は竹岡先生でした。皆さん、不思議だと思いませんか。京都教会の中村教会長さんと竹岡総務部長さんと同じ名字ではありませんか。単なる偶然というよりは不思議な深いご縁を頂いているように思えて嬉しくもあり、とても有難く思います。

今月は会長先生より「ていねいに暮らす」、前段では「分別をしない」を教えています。その中で、「朝起きて、家族にあいさつをすることも、顔を洗うことも、そのあとでご供養をし、仕事に出かけて商談することも一つ一つどれも『一大事』なのです。その行いに心を注ぎ、ていねいにとりくむことに変わりはないということです」とあります。

毎日、生活させて頂く中で、ご供養をしたり、掃除をしたり、洗濯をしたり、料理をしたりとやろうと思えば家事もキリがありません。そんな時に心がけているのは、何事も面倒くさがらず、ていねいにやるということです。面倒くさいなあとと思うと、物の扱い方、言葉づかいまでが乱暴になってしまいます。面倒なことも面倒くさがらずにやらせてもらおうと、野菜ひとつ切るにしても、ていねいに扱うことができ、一つ一つに愛情のようなものさえ感じて有り難い気持ちに包まれます。

このような気持ちは家族を含め、人さまとふれ合う時にとっても大事なことだと思わせて頂きます。「今日ただいまの行動に集中するには、自分の都合をいったん忘れることが大切なのです」と教えて頂きました。

呼ばれたら「ハイ」の返事と目を見て話しを聴くように心がけると孫たちは目を輝かせていろんな話しをしてきています。有り難いことです。

4月15日釈迦牟尼仏さまご命日の会長先生のご法話の中で、「ご命日の度ごとに教会長さん方やお役を頂いている方々の体験説法を伺い、色々なことを思い知らされ、学ぶことが多く、そしてまだまだ足りないことに気づかせて頂きます」というお話をされました。

どこまでも謙虚な会長先生の姿勢に感動しました。きっとこのような姿勢で誰とでもふれ合っていたならば分別しないで生きていけるのではないかと思います。本当に素晴らしいお師匠さまにご縁を頂いているのですから、真剣に真似ていきたいものです。

後段では「他者を思うこと」を教えています。会長先生のお宅では、冬期など給湯器のスイッチを入れてお湯が出て来るまでの間、蛇口から出て来る冷たい水を流れるがままにせず、別容器に汲み置いて加湿器などにお使いになると教えて頂きました。是非とも真似したいものです。「少しの水も無駄にしない。こうした工夫も、ていねいに暮らすことに通じることのひとつ」と学ばせて頂きました。

無駄にしないということで、私が努力していることは、米の磨き汁は下水に流さないことです。家庭菜園の野菜にあげるようにしています。スーパーで買って来たネギ、小松菜、水菜、ほうれん草を根っこから3cm残してプランターに植えました。何と、みんな根が張り、食卓に並び日もあり、青物野菜がチョッと欲しい時は重宝しますし新鮮で野菜を腐らす無駄もなくなります。ミニ家庭菜園ですけども、磨き汁やお水をあげながら野菜の成長を楽しんでいます。

小さいからだで雪をかぶっても負けずに成長した生命力に励まされます。家の周りの草引きをすると小さなミミズも顔を出します。「寝床を荒らしてごめんなさいね」と元に戻します。私にもこんな優しい心があったのかと驚きました。

「四季の彩りや変化に目を向けることが平凡な暮らしの中にある幸せをかみしめることにつながって、今この時を愛おしく思い、大切に作る心を育てる」と教えて頂きました。この心で家族は勿論のこと、出会う人とふれ合っていきたいと思います。ありがとうございました。 合掌

今回は「あなたのお仕事を教えて下さい」はお休みです。

令和3年、私たちは「どこでも道場 祈り祈られ 笑顔と涙によりそおう」を實踐して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。 <https://rkk-kyoto.jp/>